

SONRISA

# そんりさ

vol.176



オアハカ州地峡部の自律的女性議会

ジェンダー暴力反対国際デーの自律的女性議会 (COMAA)  
(2020年11月25日)

- |    |  |         |
|----|--|---------|
| 02 | メキシコ・オアハカ州地峡部の自律的女性議会<br>…ニサギエ・アブリル・フロレス・クルス |         |
| 06 | パンデミック下のメキシコ取材                               | ……篠田 有史 |
| 09 | グアテマラの土曜学級                                   | ……新川志保子 |
| 11 | 『混迷の国ベネズエラ潜入記』の刊行に寄せて                        | ……高橋 弘昌 |
| 12 | 回想のラテンアメリカ ペルー編2                             | ……唐澤 秀子 |
| 14 | ペルー音楽 ペルー・ジャズのあゆみ(1)草創期                      | ……水口 良樹 |
| 16 | ラ米百景 カストロ標語を覆したキューバ新世代                       | ……伊高 浩昭 |
| 17 | メキシコ料理 グリーピースのクリームスープ…ミゲル・アクーニャ              |         |
| 18 | ムネちゃんのLA情報拾い読み・斜め読み                          | ……小林 致広 |

2021年4月20日 日本ラテンアメリカ協カネットワーク (RECOM) 発行

## オアハカ州地峡部の自律的女性議会

ニサギェ・アブリル・フロレス・クルス

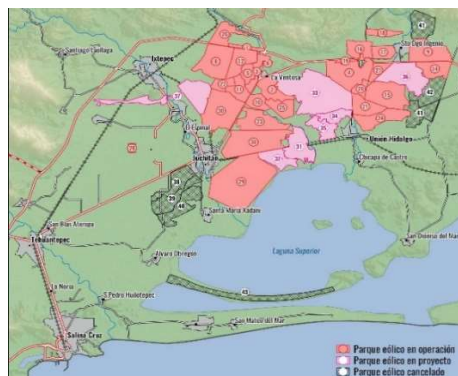
私たちは、オアハカ州テワンテペック地峡海岸部の先住民、メスティソ、アフロ系です。民芸品生産者、小売業者、母や祖母、治療者、労働者、学生がいます。多くは自分たちの言葉話し、伝統的衣装を着ていますが、そうでない人もいます。私たちはこうした差異や多様性を基盤にして、土地領域防衛テワンテペック地峡部先住民族会議（Asamblea de Pueblos Indígenas del Istmo de Tehuantepec en Defensa de la Tierra y el Territorio, APIITDTT）の内部に自律的女性議会（Concejo de Mujeres Autónomas, COMAA）を組織しました。

## APIITDTT

地峡部における多国籍企業による大規模な風力発電基地計画に対抗するために、2006年末にフチタン領域防衛会議（Asamblea en Defensa del Territorio de Juchitan, ADTJ）が生まれ、2009年にAPIITDTTに改組されました。組織化と抵抗を始めて、今年で15年になります。APIITDTTは、地峡部の先住民族サポテカ、イコーツ、ソケが暮らす13の抵抗する共同体で構成されています。

2013年には、マレーナ・レノバブレ社が計画していたイコーツの居住域にあるサンタ・テレサ砂州への風力発電基地建設を阻止できました。しかし、エオリカ・デル・スルという名前でフチタンに持ち込まれたラテンアメリカ最大規模の風力発電基地【米国三菱商事が最大の資金提供者】は工事差止請求も取り消され、2018年に完成しました。現在、地峡部には29の風力発電基地が稼働し、2千本以上の巨大な風力発電塔が林立しています。

APIITDTTは、市民抵抗全国ネットワーク（Red Nacional de Resistencia Civil, RNRC）に属しており、電力供給を人権として憲法で認知すること、土地と領域の防衛を要求しています。RNRCは、2006年以降にチアパス、カンペチェ、オアハカ、ベラクルス州などで南東部の諸州展開された高額電気料金反対の全国ネットワークを出発点としています。



風力発電  
基地分布  
2020年

2012年の電力エネルギー開発自由化を契機に各地で展開した多国籍企業主導の巨大開発計画に反対する運動を組み込む目的で、RNRCは2013年2月に組織されました。2015年には、電力問題だけでなく、各種の開発計画から共同体の土地や領域を防衛する抵抗運動の全国キャンペーンにも参加するようになりました。

APIITDTTは、自立的な先住民組織や先住民共同体の組織である全国先住民議会（Congreso Nacional Indígena, CNI、1996年創設）、2017年に発足の先住民統治議会（Consejo Indígena de Gobierno, CIG）にも参加しています。CNI-CIGは国内43先住民族、25州の532共同体で構成され、対話と出会いの空間となりました。2017年の女性広報官マリチュエイの大統領選挙登録キャンペーンに積極的に参加し、CNI-CIGが呼び掛けた3回の全国闘う女性集会にも参加してきました。



2021年3月第3回全国女性集会参加COMAAメンバー  
(先住民オトミのグループが占拠の全国先住民族庁で開催)



COMAA の組織化

APIITDTT 創設の当初から、COMAA の基盤といえるものが組織されていました。APIITDTT は、長い間、様々な共同体で活動してきました。ワークショップ、会合、研修を行ない、自分たちを強化し組織化してきました。代表や調整の役職を決定する場で女性の積極的な参加を推進してきました。

COMAA は、様々なアイデンティティやジェンダー、セクシュアリティを統合し、多様性と人々の尊厳と連帯を求める空間です。私たちの闘いは終わることはありません。日々、私たちを脅しているあらゆる家父長的なものに闘っています。

2017 年 9 月の大地震の後、組織された女性たちは、各共同体で台所やカマドの再建に取り組んできました。フチタン、サンタマリア・シャダニ、サンタロサ・デ・リマ、アルバロ・オブレゴン、チカパ・デ・カストロ、サンフランシスコ・デル・マル、ウラムチル、サンフランシスコ・イシュウアタンでは、女性議会 (concejo de mujeres) が組織されました。2 年間にわたり、議会は対話や情報の共有、意思決定の場として機能し、今日、私たちが構築し続けているものの基盤となっています。

コロナ禍でますます貧しくなっている私たちの領域を脅かしているのが、AMLO 政権が第 4 次変革 (4T) の名目で推進する巨大開発計画です。太平洋側と大西洋側をつなぐ地峡横断ルート【経済自由区のサリナクルスとコアツァコアルコを結ぶ鉄道・高速道路敷設】、悪しき名前のマヤ鉄道【ユカタン半島の観光地カンクンとパレンケ遺跡を結ぶ南北 2 ルートに総延長約 1500km の鉄道建設計画】、モレロス統合計画【モレロス州ウエスカのガス火力発電所建設計画】、ガスパイプライン建設【プエブラ・トラスカラ州からモレロス州の発電所へガス供給】、高速道路建設、飛行場建設【メキシコ市郊外旧空軍飛行場跡に国際空港建設】、鉱山開発、風力発電開発などがあります。

母なる大地を襲っている一連の開発計画に対して、先住民族とメキシコの市民は、「地峡部は私たちのもの (El Istmo es Nuestro)」というスローガンを掲げ、闘うことを決意しています。地峡部から組織化や対話を続けていくことに関して、集団的構築を行うという考えを共有できるすべての人々とともに、自己決定の自由を求める闘い続けることを私たちは決意しました。



イシュテペックの伝統的カマドを使った台所・カマド再建



台所・カマド再建説明会 (サンタロサ・デ・リマ、2017 年 9 月)



アルバロ・オブレゴンでの台所・カマド再建計画報告会 (2018 年 8 月)

日々、深刻化する経済や社会、健康の危機から生き延びる必要性から、私たちは私たちの可能性や、集団的で共同体的な能力の基盤を作ることを決めました。今日、生命のために闘っているすべての私たちの姉妹、協力者、同志たちと分かち合い、公の場で取り組んでいます。



会見する APIITDTT 代表ベッティナ



清めの儀式



チアパスの開発計画の説明

「地峡部は私たちのもの」集会 (2019 年 9 月、フチタン)

## 私たちのプロジェクト

### Lapa Guie (民芸品協同組合)

この共同組合は、テワンテペク地峡海岸部の先住民ビニサー (サポテカ) の5共同体 (フチタン、サンタマリア・シャダニ、サンタロサ・デ・リマ、アルバロ・オレゴン、チカパ・デ・カストロ) の女性たちによって組織されました。

協同組合の内部では、デザイン、下書き、刺繍、機織り、仕立て、洗濯、アイロンがけ、販売とソーシャルネットワークサービスの仕事を分かち合っています。

私たちのデザインは、植生や動物相、風景、伝統や慣習、生活体験、闘いや抵抗といった共同体や領域の要素を取り戻すという参加型の方法で製作されています。このやり方はコロナ禍を機に始まったもので、経済危機と対決し、組織の活動を活性化し、私たちの身体、領域、権利のための闘いを続けるためでした。

私たちの製品を販売して得られたお金のすべては、私たちが活動を継続し、さらに多くの多様な製品を作るために再投資する共同資本となります。協同組合に参加している人の家族の生計を支援するだけでなく、製品が売れるたびに自己成長し、組織化を続ける動機となります。

個別のオーダーメイドも承りながら、製品を作成します。刺繍、織り物、チェーン・ステッチなどのテキスタイル作品を制作します。また、デザイン、スケッチ、絵画制作、額縁の制作も行い、あらゆるタイプの材質や素材に壁画も描きます。

販売製品としては、フチタン独特のデザインのウェイピル、刺繍の入った手提げ袋、通学用のカバン、帽子などもあります。革細工製品には、メキシコ州の女性革加工職人との共同作業のものもあります。



第3回全国女性集會会場に設置された織物製品の販売所



ラパ・ギエは花冠という意味



ルシアンダは治癒という意味



民芸品協同組合と領域防衛のための学校に関する説明会

(チカパ・デ・カストロ 2021年1月)

### Rusianda (伝統的自然治癒の協同組合)

ルシアンダでは、私たちの祖父母が口伝で継承してきた先祖伝来の知恵や実践を取り戻す活動をしています。祖父母は個人や家族、共同体をケアするため植物の力を信頼してきました。

私たちは、ベラクルス、オアハカ、モレロス州の姉妹や協力者、メキシコや世界の諸個人の支援を仰ぎながら、継続的に能力養成と学習の場集まっています。そして、お互いの知恵や実践方法を共有しています。

ルシアンダは、組織化を通じて、植物の知識や利用法、自然医療の技術を再生産し、保護するよう呼びかけています。私たちの使命は、工業的な医薬品の使用に対する代替案として、自然で伝統的な医薬品の使用を推進しています。工業的医薬品は、多くの場合、私たちが治癒するというより病気にしかねないものです。公衆衛生や、医療を特権的で金儲けのビジネスとして行っている人たちの時代遅れで人種差別的なシステムの下で使用されています。

私たちは健康と自己管理に関する集団的な空間を共同体に作り出すという必要性を信じています。そこでは、人々は、日々現れる様々な病気に対する治療を受けられます。共同体に暮らし、治療が最も必要とされる人々にとって、支払いや受診が容易になります。





共同体メンバーと腎臓・血圧・糖尿病に有効な伝統的薬草の調査  
(サンタマリア・シャダニ 2020年12月)

コロナ禍の現在、従来のように共同体での対面形式での対話集会やワークショップを開催することは難しくなっています。そこで、私たちはSNSを使ったバーチャル講座の開催も試みています。

2020年11月の週末の土曜日に、「パンデミック時代の共同体的保健衛生」という連続講座を組織したことがあります。各回の講座では2名の講師が担当し、うち一人はAPIITDTTメンバー、もう一人はチアパス州やベラクルス州などほかの地域で活動している姉妹が担当しました。

一回目の講座では、CNI-CIG 広報官で伝統医療者でもあるマリチュイと、APIITDTT 創設メンバーのベッティナ・クルスが、「私たちの知恵を守りながら領域を守る」というテーマで講演を行っています。その様子はCOMAAのFacebookで視聴することができます。



講座「パンデミック時代の共同体的保健衛生」ポスター  
(2020年11月毎土曜日 Facebook で配信)

現在も、絶えず更新作業中ですが、私たちのFacebookとwebページを紹介します。「いいね」を押して、共有・拡散し、私たちを支援してください。

### Facebook

<http://www.facebook.com/concejodemujeresautonomas>

Web ページ <http://www.concejomujeres.org/>

店のアドレス <http://www.concejomujeres.org/tieda-a>

E-mail [concejomujeres@gmail.com](mailto:concejomujeres@gmail.com)

電話/whatsapp 971 139 9960

この活動を展開する過程で、私たちを支援してくださったすべての組織、集団、個人に感謝します。私たちと一緒に活動しようとする人々と協力し、組織し、連帯することを呼びかけます。私たちの闘いは生きるための闘いです。



COMAAの共同体ラジオに関する説明会  
(サンタロサ・デ・リマ 2021年1月)



COMAAのメディアや協同組合に関する説明会  
(チカパ・デ・カストロ 2021年1月)

この記事は、2021年3月1日にCOMAAが公表した宣言「¡Decidimos seguir vivxs, organizadxs y defender el territorio! (私たちは、生き、組織しつづけ、領域を守る決意です)」の翻訳に基づき、COMAAメンバーNisaguieさんから提供された写真・資料などを利用し、成田有子・小林致広が構成・編集したものです。

# パンデミック下のメキシコ取材

篠田 有史 (フォトジャーナリスト)

頭皮の痒みが続くので、近所の皮膚科へ行った。原因はストレスだと言われた。帰って妻（工藤律子）に伝えると「あなたがストレス。ありえない！」と鼻で笑われた。肩こりすらしない人間が、ストレスなんて、ということか。ぼくも初めは信じなかった。医者は、コロナ禍でみんなストレスを溜めているから、それが原因と判断したのだろう。

が、思い当たることもあった。少し前、へその右にぴりぴりする感覚があり、見ると規則正しく小さな赤い点が3つ並んでいた。帯状疱疹？2年前、メキシコで帯状疱疹になった。以前、妻が帯状疱疹にかかり症状を知っていたので、早めに診てもらい軽症ですんだ。

今回は病院には行かず、メキシコで買った期限切れの薬を、いぶかる妻を横目に飲んだ。1週間ほど飲み続けると症状は消え、赤い点だけがしばらく残った。帯状疱疹の主因はウイルスだが、発症の原因はストレスであることが多い。

パンデミック下でもシエスタを欠かさず、のんびりと暮らしていても、移動の自由を奪われることは、ぼくには大きなストレスなのだ。2020年3月18日、戒厳令下のようなフィリピン・マニラを追われるように出国して、すでに8ヶ月が過ぎていた。

フォトジャーナリストとして活動を始めてから約40年、こんなに長く国内に留まることなどはなかった。ようやく2020年12月1日から、4週間、ぼくと妻は、満を持してメキシコ取材に出ることにした。

メキシコは入国制限がまったくなかったからだ。久しぶりに心躍ったが、不安もあった。自らの感染もだが、それ以上に取材先が快く受け入れてくれるかが、一番心配だった。だが、取材先のひとつである保育園は、大歓迎と言ってくれた。

いつも利用するアエロメヒコの直行便はコロナ



保育園取材風景

禍で欠航中。仕方なく、ダラス経由のアメリカン航空を使うことにした。閑散とした成田空港で少し厳しめのチェックを受けて機内に入ると、意外にも、空いてはいなかった。ダラス空港では椅子を空けて使う指示マークすらなかった。共和党が強いテキサスゆえのことか。

メキシコシティまでは、ほぼ満席だった。乗客は全員マスクをし、さらにフェイスガードをしている人もいた。ぼくたちは、CDC（米国疾病予防管理センター）のファウチ博士にならぬ、不織布と布の2重マスクをしていた。マスコミは、スパコン富嶽の計算結果をもとに二重マスクの効果は小さいと報道していたが、少しでも吸い込むウイルス量を減らすという意味では、有効だ。

メキシコでの主な取材テーマは三つ。二つはNHKの「国際報道2021」の特集で、パンデミック下でほぼボランティアで運営する保育園とTV教育。もう一つは長年続けている移民の取材で、月刊「世界」での連載が決まっていた。もちろん状況により、取材対象は変わることもできないこともある。

保育園の企画はぼくたちがNHKに持ち込んだものである。保育園の代表とは10年以上の付き合いがあり、ぼくたちが関わっているNGO「ストリートチルドレンを考える会（以後、会）」を通して



も支援を続けていて、気心が知れているので、心配はなかった。

TV 教育はNHK 側から持ちかけられたもので、メキシコ政府がそんなことを始めたことは知らなかった。しかも世界初という試みで、面白そうだが、取っ掛かりはないが、行けばなんとかなるだろう、と思った。

そして三つめは、移民の話。メキシコの北と南の国境を訪ね、現在の移民の状況を取材するものだ。工藤が取材先とコンタクトをとり、日程や滞在先を前もって決めていた。取材とは別に大切な使命が、もう一つあった。「会」が支援しているいくつかのNGO の訪問だ。30 年あまり付き合いのある職員たちには、是非会いたかった。

メキシコシティでの滞在先はさほど問題なかった。常宿にしている中年夫婦が4匹の犬たちと住む家は、二人とも持病があるので遠慮し、そこから歩いて15分ほどの所にある別の家に泊まることになった。「そんりさ」の講読者の中には、読まれた方もおられるかもしれない。サパティスタ民族解放軍(EZLN)のスポークスパーソンで副司令官マルコスのインタビューをまとめた“Yo, Marcos” (『わたし、マルコス』、Ediciones del Milenio, 1994年11月刊)の編集者、マルタの家だ。

3年前に犯罪組織や警察などによるジャーナリストの殺害についての取材中、「脅迫を受けたジャーナリスト」として、自宅へインタビューをしに行き行って話すうち、ぼくたちがずっと前に出会っていることに、彼女のほうが気づいたのだ。

今から27年前のチアパスでのEZLN蜂起の時だ。マルタは取材者としてではなく、EZLN側のボランティアとして働いていた。蜂起の初期は、ほかに日本人がいなかったから、ぼくたちは目立つ存在だったのだろう。そう言われれば、クリっとした目の特徴のある顔を見たような気がする。

そんな彼女が、一昨年「今度来た時は、泊まりに来て。部屋を用意しておくから」と、中庭の片隅の離れを見せてくれたのだ。シャワーとトイレ付き



メキシコ市街中心部

ワンルームの離れを、ぼくはとても気に入り、いつかはと思っていた。

黒く塗られた鉄の扉を開けると前庭があり、2階建て住居が建っている。家に入ると、すぐ左手がこじんまりとした居間で、書棚は研究者には垂涎ものの歴史的な名著であふれている。その奥に食堂があり、ガラス戸を通して、小さな中庭が見える。そのすぐ右手にぼくたちのための小さな離れが建っていた。

この家は、マルタが父親から受け継いだものである。両親はすでになく、兄弟は別に居を構え、彼女がひとりで住んでいる。彼女の父親は新聞Excelsiorの著名な記者で、新聞記者らが共同で土地を安く手に入れ開発した、Colonia Periodista IIと呼ばれるこの地区に居を構えたのだった。

ぼくたちが訪れたのは12月だったから、大きなクリスマスツリーが、居間と食堂の境の壁際に立てられていた。ちょうど、彼女のパートナーでぼくと同じ年のドイツ人が来ていた。彼とはドイツ留学中に知り合ったらしい。彼はスペイン語を話し、彼女はたまにドイツ語で彼に話しかける。二人は、通常はそれぞれの祖国で別々に暮らし、時々互いに行き来している。ぼくたちは、北と南の国境地帯へ行く時以外、この家に滞在した。ここではマスクなし、食事は大きなテーブルの端と端で会話をしながら食べた。

マルタは、メキシコ医療は完全に崩壊している、どの病院も患者を受け入れていないと言った。そして、コロナで亡くなった知り合いの女性カメラマンの話をした。日本では身近にコロナ感染を感

じることはなかったが、これ以降、取材や知人を訪問するたびに、ぼくたちはコロナを信じられないほど身近に感じるようになった。

メキシコでは、赤、橙、黄、緑の4色でコロナに対する注意報が州ごとにされる。12月初め、メキシコシティは橙だった。赤でも「不要不急の外出禁止」程度なので、さほど厳しくはないようにみえる。だが、飲食店はすべてデリバリーのみになっていた。それでも、露店のタコス屋で食べている客も多くいた。

保育園「オリン・シワツイン」は、ソカロ（憲法広場）から東へ約1km、大小様々な商店や露店があふれる地区にあり、そこで働く人たち（露天商や娼婦など）の子どもを預かっている。コロナ禍で、初めは1ヶ月半ほど休園していたが、親たちの強い要望で、当局に掛け合って再開した。公教育省の判断で、学校や保育園は基本的には閉められていた。

朝、9時すぎ。三々五々、子どもたちが親に連れられて、やってくる。入り口で消毒液に浸されたマットを踏み、身体中に消毒液を振りかけられ、体温を測ってもらい、中へ。さらに自分で手を洗い、朝食のシリアルを食べる。

家では朝食すら食べられない子もいる。マスクをせずに来る子もいるが、ここで各人マスクをもらう。この日は37人の子どもがやってきた。オリン・シワツインの保育料は週270ペソ（約1,500円）ということになっているが、それを全額払っているのは、平時でも6人ほどだ。極端に貧しい家庭からは1ペソも取らない。

代表のディアナは、週末に家業（自動車整備）の経理を手伝い、保育園では無給で頑張っているが、コロナ禍で経費はかさんでいる。実は、ここで働く食事係のラウラとは、彼女が幼くして子どもを産んだ少女たちの施設「カサ・ダヤ」にいた23年前からの知り合いだ。子ども時代を路上ですごしたその人生には紆余曲折があったが、今はディアナたちの助けもあって、落ち着いた生活を送って

いる。が、個人の寄付に頼っている保育園もコロナ禍によって、明日はどうなるかわからない。少しでも助けになるようにと、会は保育園に毎月緊急支援金を送り続けている。

全国で行なわれているTV教育に関しては、保育園の先生に近所の卒園者の家庭を紹介してもらって取材した。国の公共放送機関のトップはマルタの知り合いでもあったので、直接インタビューをすることができた。あとは田舎の状況を撮るだけだった。

その後、ぼくたちは「赤」を脱したばかりの北の国境の町シウダー・ファレスと、「緑」の南東部チアパス州へ飛んだ。北では、以前に2度世話になった女性の家に、今回初めて泊めてもらった。その5人家族の全員がコロナ感染済みだった。

チアパス州では、取材を手伝いサンクリストバルの自宅に泊めてくれた青年も、感染済みだった。実は前述の公共放送機関のトップも感染済みだった。12月の時点で、すでにメキシコの総人口の4分の1が感染しているのではないかと言われていた。その後訪ねたメキシコシティのスラムの友人たちも、何人か感染し、亡くなった人もいた。

しかし明るさも見えている。クリスマスイブにワクチンが届き、翌日から接種が始まった。接種はそれほど早くは進んでいないが、25%がすでに感染を経験していることを考慮すれば、メキシコは日本よりはるかに早く、集団免疫が得られるのではないかと期待している。

取材の詳細は、移民については岩波『世界』4～6月号、TV教育に関してはimidásのwebサイト／連載コラム（工藤律子）をご覧ください。「ストリートチルドレンを考える会」の活動は、HP、Facebookで確認できます。「オリン・シワツイン」を含む現地NGOへの緊急支援やオンラインイベントなどを行なっています。

「国際報道」の内容は以下をお読みください。

[https://www.nhk.or.jp/kokusaihoudou/archive/2021/02/0201\\_2.html](https://www.nhk.or.jp/kokusaihoudou/archive/2021/02/0201_2.html)



# グアテマラの土曜学級

新川 志保子

レコムが支援しているグアテマラ、チマルテナンゴ県ポアキルの土曜学級も、今年で10年目となります。新型コロナウイルスの発生により、去年、今年と土曜学級も大きな試練に直面しています。運営しているのはポアキルのマヤ女性組織であるグアダルーペ協同組合です。

## 2021年の土曜学級・グアダルーペ組合の提案

20年末の段階で、グアテマラのコロナ感染状況は収まっておらず、土曜学級のあるポアキル郡も「オレンジ信号」(グアテマラでは地域ごとに感染者数割合で、最も危険な「赤」⇒「オレンジ」⇒「黄」⇒安全な「青」と4つに色分けし、それに合わせて規制が行われています)のままでした。収束の見通しもたっていない不透明な状態で、土曜学級はどうなるのかと心配していたところ、グアダルーペ組合より翌年の提案が送られてきました。

その提案とは、21年はオヘル・カイバルという村で行うということ、子どもを3グループに分けて、交代で授業をする代替案を用意するというものでした。アシエンダ・マリア村では3年間クラスを行いました、それを一区切りとして、今年が必要としている他の村で行おうということです。

オヘル・カイバルは300家族が住む小さな村で、生活は貧しく、交通も不便なところです。小学校はありますが、一クラスに40人以上の生徒がいて教師の目が届かず、文房具もなく、授業についていけない子どもが多いのだそうです。学校に通えない子どもも多いので、土曜学級の必要はとて高いことからこの村に決まりました。受け入れる子どもは例年通り30人です。

教師は村の住人でもあるエルサ・オフェリア・ヨヘーロさんです。グアダルーペ組合の奨学金で学び、教員資格をとりました。

現在は10人以上の集まりが禁止されていることから、それが継続した場合は、30人の子どもを



オヘル・カイバル村の土曜学級参加の子どもたち

10人ずつの3グループに分け、それぞれ朝8時から10時、10時から12時、13時から15時まで授業を行います。

第1グループは7時半に来て、朝ごはんを食べてから授業。第2グループはクラスが終わった12時に昼食をとり、それと入れ替わりに、第3グループは来て、すぐに昼食にして13時から授業を始めるということです。

この3つのグループは週ごとに交代し、例えば今週第一グループだった子どもたちは次の週は第二グループの時間帯に、そして翌々週は第3グループの時間帯というようになります。また、コロナ対策としては、クラスでは教室の殺菌、机と机の距離を取る、手洗いの徹底、マスクの着用などをしっかりと行うというものです。

これを受けて、レコムでは土曜学級の予算である65万円を調達するために募金を始め、約一月で24万円が集まりました。不足分の41万円はレコムより拠出し、予算額をグアダルーペ組合に送金しました。このお金は教師への謝金、教材や文房具の購入、給食に使われます。

教育省が新学期開始を2月からと決定（例年は1月）したため、土曜学級もそれに合わせて2月6日に開始することになりました。もっともコロナ「オレンジ信号」のポアキル郡では、小学校はまだ開くことができません。土曜学級も代替案の3グループ制で行い、コロナ対策をしっかりと取ということで村から許可をもらいました。

## 始まってから2ヶ月半

さて、クラスが始まりました。受け入れた子どもは年齢が7歳から11歳までの30人で、プレスクールから2年生までの授業を行います。そしてクラスが始まると、1グループごと2時間の授業、食事時間30分というようにスケジュールを決めていましたが、これが無理なことがわかりました。

グループの交代時に2つのグループの子どもたちが一緒になってしまうからです。子どもたちが重ならないように時間の調整を行い、その結果、授業時間を30分短縮することにしました。短い時間なので教えられることが限られてしましますが、しかたがありません。そのために、教師が子どもの年齢に合わせた学習ドリルを用意してそれぞれの子どもの年齢に配り、宿題として家庭で自習できるようにしています。

また、3つのグループがローテーションを組みますが、最初は混乱する子どももいて、今ではヨヘーロ先生が、毎週前日に各家庭に電話してどの時間帯かを連絡しているそうです。

クラスを始める時、男の子が24人だったのに女の子は6人でした。このアンバランスは、受け入れる子どもを決めるプロセスで、グアダルーペ組合が参加できなかったことによるものようです。例年なら、組合の運営委員が村に行き、村の人たちと相談しながらどの家庭の子どもを受け入れるかを決め、その過程で子どもの男女比が同じになるようにしていました。しかし、今年はコロナで外部からの訪問は禁じられているため、それができませんでした。子どもを一人行かせるなら、ま



授業風景



使用教材

ず男の子を、と考える家庭がまだまだ多いようだが、これはヨヘーロ先生がグアダルーペ組合と連絡を取りながら、各家庭と交渉し、男女比が半々になるように調整しました。

子どもたちがとても楽しみにしているのはもちろん給食です。朝食は卵とオートミール、フリホル豆と主食のトルティージャを出します。お昼は、卵の代わりに肉と野菜のものを用意します。給食を担当してくれるのはロサ・クシュさんです。前日の金曜日に片道1時間かけてポアキル町まで食材の買い出しに行きます。当日は、お母さんたちが交代で調理を手伝います。教師と給食担当は、子どもたちの交代の度に、掃除や椅子・テーブルの殺菌と大忙しです。

クラスが始まってから2ヶ月半になりますが、子どもたちは大喜びでやってきています。親や村長さんからも感謝されています。コロナによるいろいろな制限があり、試行錯誤で行なっていることも多いですが、村で唯一のクラスとしても重要なものになっています。



楽しい給食時間



# 『混迷の国ベネズエラ潜入記』の刊行に寄せて

高橋弘昌 (コロンビア日本食レストラン『侍や』店主)

コロンビアに住んで 40 年以上になるが、近年、ベネズエラに関する報道を見聞しない日はない。国家破綻寸前と言われ、国外脱出者は 400 万人とも言われている。その大半が私の住むコロンビアに押し寄せてくるから人ごとではない。うちの店にもそんなベネズエラ人たちから「働かせてほしい」という問い合わせがたびたび入る。話を聞くと「食べ物ものがない」、「月給 3 ドル」、「外を歩けない状態」だという。いったい、どうなっているのだろう。

そんなベネズエラに果敢に挑んだのが、本書の著者、北澤豊雄である。北澤君は 10 年以上も前にうちの店で働き、私たち家族を困らせている。なにしろみずからコロンビア最大左翼ゲリラ組織を探しに行ってしまう男である。パナマの留置場にも収監されたことがある。コロンビアでの身元引受人ということで、私のもとにはコロンビア大使館やパナマ大使館から北澤君に関する照会が何度か来た。困った男だが、私にとっては息子も同然であり、彼が来るといつも部屋をあけて待っている。

コロンビアとベネズエラは政治的に仲が悪い。一方がかつて内戦的状況だったコロンビアは国外に 300 万人以上もの難民を出していた。その受け入れ先として機能したのが、当時石油で潤っていたベネズエラだったのだ。だからコロンビア人はベネズエラ情勢を客観視しにくい。

その点、北澤君はバランス感覚を持ち合わせている。本書を読んで、隣の国に住んでいるのに実態がつかめなかったベネズエラの現状がおぼろげながら把握することができた。

詳しくは本書に譲るが、ここで取り上げたいのは第 4 章の「刑務所にいた日本人」関連の話。ベネズエラ—マドリッド間で麻薬の運び屋をやっていた日本人にインタビューしているが、



【書籍名】混迷の国  
ベネズエラ潜入記  
【出版社】産業編集  
センター  
【著者】北澤豊雄  
【定価】1,100 円 + 税  
【発売日】2021 年 3  
月 15 日

コロンビアに住んでいると、これは身近な話題なのです。

たしか 5、6 年前ぐらいだっただろうか。コロンビアに遊びに来た 30 代ぐらいの日本人の夫婦が、帰国便の飛行機に乗るために首都ボゴタのエル・ドラード空港にいたら、みず知らずのコロンビア人の男から片言の日本語で声をかけられた。「東京に住んでいる日本人に世話になったことがあるので、このプレゼントを渡してもらえないでしょうか？」

男はそう言って箱から中身を取り出した。お香立ての民芸品だった。物腰が柔らかくとても丁寧だったので、夫婦は了承して日本に持って行くことにした。そうして税関を抜けようとしたら——。ここまで読めばもうお分かりですね。民芸品にはコカインが詰まっており夫婦はボゴタの刑務所に送られました。

コロンビアや中南米ではいまだにこのような手口があります。ボゴタで 40 年以上も店をやっていると、日本人絡みのこうした話を聞くことがあって胸が痛い。

これを読んでいる皆さんに、くれぐれもお伝えしたい。中南米では、帰国間近に知らない人から物を受け取らないで下さい。よく知っている人からの依頼ですら疑ってかかったほうがいい。私は息子のように可愛がっている北澤君から頼まれても断るつもりです。

エクアドルからペルーへ移動するころ、とても心に残っていることがあります。キトもインカ帝国の面影を強く残している都市です。ここを歩いているとがっしりとした顔立ちのケチュアの人びとにたくさん会います。私たちが宿をとった旧市街のバスターミナル近くではケチュア語がよく聞こえてきます。

町中で食事をする場所や、なにかでいつも立ち寄りできる場所があると、そんなところから顔見知りになって言葉を交わす人が増えてきます。そんな人たちが当時さかんに話題にしていたのは、ペルーではケチュア語が公用語になる、ということでした。それまでスペイン語だけが公用語だったわけですが。当時の新聞(1975年5月)をみると、ペルーの人口はおよそ1,600万人、その半数がケチュア語話者だということです。エクアドルでもおそらく事情はあまり変わらず、ケチュア語話者が多いはずですが。スペイン語とケチュア語がともに公用語になることにもろ手を挙げて賛成かというところ、意外とそうでもなかったようです。ケチュア語が、各地によってずいぶん違う、ばらばらなものをどうするのか、どれをもって正式な言葉とするのかという反対意見をよく聞きました。新しいことが始まる時にある、抵抗感であるのかもしれない。また、私たちのような旅行者に親しく話しかけてくるのは、まったくの先住民系の人びとではなかったということでもあったかもしれません。それでも、ケチュア語が公用語になる、というニュースは強く心に残りました。

ペルーに入って間もなく軍によるクーデターに出会いました。下宿の主人たちは、最初は私たちにも外出は控えた方がいいとアドバイスしてくれたのですが、外面的にはほとんど何もおこらず、私たちも何事もなかったかのように普通に歩く日々が続きました。前大統領のベラスコ(1968~75年)が倒され、ベルムデス(1975~80年)に変わったのですが、ペルーの軍事政権は、当時の他のラテンアメリカ諸国の軍政とは性格を異にしている、民族主義的な政策は変わらず続いていました。そ



1970年代半クスコ中心広場 (myoldfilm.com)

て、何か目立って変わったというようなこと、気が付くような変化はわかりませんでした。

1ヶ月ほどして私たちがマチュピチュを訪れたとき、マチュピチュの段々畑でたぶん高校生くらいの若者たち数人と先生らしいグループに出会ったのです。マチュピチュの建造物を指しながら、先生が説明しているらしい様子でした。自分が高校生のころ、修学旅行で奈良、京都へ行き、先生にいろいろ説明を受けながら寺院や博物館を回った時のことを思い起こさせる風景でした。

じっさいマチュピチュの段々畑、きつちりと石が組み上げられた建物の美しさなどには、高い山の上という場所ともあいまって、だれでも感嘆するでしょう。この場所がどのようにして作られたのか、何のために作られ、放置されたのか、さまざまな思いが湧くことでしょう。インカ帝国の中心であったクスコでもまた大きな石が隙間もなく積み上げられた石壁が圧倒的な存在感を放っています。しんと静まり返った夜に石壁にはさまれた小路を歩くと、石に刻まれた蛇が生き返り、何百年も昔に連れ戻されるような感じさえます。単なる旅人である自分でさえこんな感慨に打たれるのですから、インカの人びとにはどれほどの思いが積もっていることでしょうか。

わたしたちはリマを起点としてローカル線のバスやトラックを乗り継いでワンカヨ、ワンカベリカ、アバンカイ、アヤクーチョ、クスコ、オヤンタイタンボなどアンデス地方を訪ねました。バス路線から見えるのは、人影もなく、イチュという藁のような草のほか、ほとんど草も木も見えないような荒涼とした高原ですが、ときどき、「降ります」といって、降りていく人がいます。見渡すかぎ



り、家どころかなにも見えないようなところですよ。降りてどれくらいまた歩くのでしょうか。そんなことが何度もありました。のちにウカマウ映画『第一の敵』の冒頭、ただひたすらなにもない高原を歩いていく人びとのシーンを見た時、あのシーンはアンデスに暮らす農民にとって、当たり前の日々の生活そのものなのだと、なにもないところで降りて行った人が思い出されるのです。

こんなこともありました。アヤクーチョにもう暗くなって着いたとき、たまたま大きな全国規模での会議があり、宿がすっかり満員で、どこに行っても空き部屋が見つからない。困っているのは私たち二人だけでなく、数人のバックパッカーもそうです。私たちは相談したわけでもなく警察に行きました。インフォメーションなんてあってもこんな暗くなつては、どこも開いていません。事情を話すと、あ〜、そう、という感じで、では、こちらにとあっさり案内してくれたのは、中庭にある大きな講堂のようなところ。ここで夜を過ごすようにということで、その時は、すごくほっとして、安心したのです。もうすっかり暗くなっていて、食堂があったとしても光が見えないのですから、開いているところはなかったのだと思います。持っている非常食のようなものを食べ、水道の水を飲み、あ〜、やれやれ、ま、とにかく屋根の下で休めるという安堵感ですぐ眠ってしまいました。

朝の光に目が覚めてみれば広い講堂のような部屋の反対側には先住民の夫婦らしい一組がいて、小さな荷物を背負い、2段重ねのお弁当箱を下げていて、まもなく警官に連れられて外へ出ていきました。私たち宿にあぶれた旅人は、顔を洗い、朝の身じまいをすませると、では、ありがとうございますと挨拶をして警察を後にしました。どうも、そこは先住民夫婦の様子からして留置所であつたらしいと察しがついたのでありますが、それにしても、なんともおおらかなことです。

また、この道中のどこであつたのか名前は覚えていないのですが、特別なあてもないまま私たちは小さな町でおり、リュックを背負って歩いているとき、一緒のバスで降りた青年が話しかけてきて、宿を探しているのなら、この街には宿などないから自分の家に泊まるようにと誘ってくれたのです。誘われるままについていったのですが、夫



アンカシュ大地震で  
壊滅の町ユンガイ

<https://diariocorreo.pe/>

婦と小さな子どもの家族だったでしょうか、新しいけれど、本当に簡素な家でした。夕飯といっても小さなパンをひとつふたつといったくらいのものであったと思います。夜になってほの暗い灯りの下でいろいろと話したのですが、そのときの記憶を辿ってみると、そこは1970年に起こったアンカシュ大地震の被害を蒙った地域だったようです。

若い夫婦はあたり一帯はほとんど壊滅したし、自分たちの家も倒壊し、この家はようやく再建できたばかりだ。呆然としている人々のあいだには、インカリがついに復活したという噂が流れたといえます。それはスペイン人征服者に殺されたインカの最後の皇帝は、身体はアンデスに、頭部はスペインへ運ばれて埋葬されたが、時が満ちれば、頭部はアンデスに埋葬された身体を求めて帰ってくる。その時スペインの支配は終わって皇帝インカとインカの支配する世界秩序が復活し、先住民が救われると言い伝えられていたといえます。

この原稿を書いている今、私たちを泊めてくれた家族は大地震の被害からようやく立ち直ったばかりだったことを改めて思い、そんな困難な事態にある日々ののに、バスで出会ったばかりの私たち、どこのだれとも分からない外国人旅行者を受け入れてくれるその気持ちはどこから生まれるものか、限りもない心の広さに打たれます。自分がそんなことができるだろうか？

思えば旅に出て、とくにパナマ以南、いたるところで行きずりの人、バスで同席した人、食堂で席が近かった、そんなきっかけで家に泊まるように招いてくれる人が少なからずいて、最初は本当に？と思い、遠慮もしていたのですが、だんだん本当にそうなのだと、分かってきました。招かれた家がとりわけて裕福でもなんでもなく、土間のようなところに一緒に板を敷いて休んだ家、わずかな食事を分け合った家、まるで昔話の旅人のような経験をさせてもらいました。

## ペルー・ジャズのあゆみ (1) 草創期

気がつけばこの連載もずいぶんと長くお付き合いいただいている。そしてこの連載を続けている間に、私自身もより深く、より広くペルー音楽のいろいろな側面に少しずつ出会ってきた。今回はペルーのジャズのお話をしてみようと思う。以前に少しペルーのジャズについて書いたこともあったが、ホセ・イグナシオ・ロペス・ラミレス・ガストンのペルーのジャズ史の論考をたたき台に、私の個人的な視点なども注入しながら2回にわたり見ていきたい。ジャズは言うまでもなくアメリカ発祥の音楽だ。ニューオーリンズの黒人たちの音楽が…と説明されることも多いが、彼の地が元々フランス領であったこと、カリブ系アフロも多かったことなどはどうも捨象されがちで、ジャズ自体が、実はラテン音楽との地続きの中からの出発であった。

そんなジャズが世界にもたらしたインパクトは計り知れない。ペルーにジャズがもたらされた時代、ペルーは19世紀末のチリとペルー・ボリビア連合軍の「太平洋戦争」での手痛い敗戦によって、戦後ペルーをどのように復興し国家および首都リマを近代化していくか、そして何より戦争の最中反乱を繰り返した先住民を「国民化」していくのか、という問題に取り組んでいた。

その中から、先住民を生きた人間として評価し、彼らの文化をペルーの国民文化へと編入していかねばならないとする運動が、文学・美術・音楽などから生まれ、それが政治へと収斂していった。インディヘニスモ（先住民擁護運動）と呼ばれる運動である。

音楽分野では、それはまず、死せるインカの称揚から始まった。インカ音楽と呼ばれる「アンデス風」な「想像された音楽」としてのインカ歌劇が19世紀末より作られるようになり、1913年の「コンドルは飛んでいく」では、実際の先住民の労働争議を取り扱うところまでこぎ着けた。この演目はクーデターと戒厳令で公演を打ちきられたにもかかわらず、各地で自主公演が広がり、5年間で3000公演されるほどの影響力を持ち、今なおもっとも知られた



Remembranzas del Criollismo (2010年)

アンデス音楽として愛されている。

それと時同じくして、徐々にアメリカ経済圏に取り込まれつつあったペルー社会には、アメリカの新たな産業である音楽メディアによる最新の音楽が入り込み、都市社会においてそれまでのリマの娯楽であったパーティや祭り、闘牛、劇場などを脅かしつつあった。

1920年代のリマでは、チャールストンやフォックストロット、ワンステップなどの新しいリズムが、タンゴやバルス（ワルツ）、マズルカなどを押しやって、流行の最先端へと躍り出てきており、多くの民衆音楽家たちもこぞって演奏し、また作曲を始めた。1922年にはリマ南部の Chorley 郊外のビーチにあるカジノでジャズの演奏が始まり、それがラ・プンタにも増え、というように徐々に活動の場を広げていったことがわかる。これらの演奏を担ったのは、家族の渡米経験があるものを含む主に富裕層子弟たちであった。

こうしてリマ南部のリゾート地で始まったペルーのアマチュア・ジャズ演奏は、多くの文化人に生でこの音楽に触れる機会を作り、ジャズとその周辺音楽が急速に社会に定着していくことを後押しした。1931年にはリマ初の公的なジャズバンド「リズム・ボーイズ」が結成された。彼らは第二次世界大戦中、リマの米軍基地をたびたび訪れ、そこで最新のジャズなどの情報を得ながら、それをリマに向けて演奏していたという。1930年代から1940年代にか



けては、リマでは多くのジャズバンドが結成され、1950年代以降のペルー・ジャズの躍進を準備することとなった。

時を同じくして、当時のリマでは、急速に変貌するリマ市の開発拡張と近代化の波に動揺したバリオ（下町）の日曜音楽家たちが中心となり、各地で社会音楽センターが作られ、クリオジスモと称して、リマの伝統を守るための文化運動が展開された。この運動はリマっ子とはこうである」という伝統を創造する実践でもあったが、その仮想敵は社会の近代化と音楽の商業化、そしてアメリカ音楽でもあった。

週末のパーティに人生を賭けていたカタギのアマチュア音楽家たちにとって、ラジオやレコードといった媒体から流れ出すアメリカの最新音楽は、彼ら自身の育んできた文化を揺るがす熱さと勢いをもっていたということも想像に難くない。

しかし、同時にペルー国内でも、徐々にラジオやレコード産業が立ち上がってくると、ムシカ・クリオージャからもスターが登場し始める。そうして仮想敵であった商業音楽やアメリカ音楽と折り合いを付けつつ、ムシカ・クリオージャは商業音楽としてジャズの手法や編成を取り込んでいくことになった。1920年代に活躍したムシカ・クリオージャの草創期に活躍した作曲家フェリペ・ピングロも多くのワンステップやフォックストロットなどを作っている。ペルー国内でレコード録音が始まると、演奏にはクラリネットやトランペットなどが導入され、ジャズ編成などからの借用が楽器面でも音楽面でも多く見られるようになった。かようにムシカ・クリオージャは、その初期からジャズの影響を強く受けつつ、40年代以降のナショナルリズムへの包摂の中でバルスとポルカ以外の外来音楽をムシカ・クリオージャから排除し、それをもってペルー性を確立しようとしていた。

そしてそれは1950年代以降、チャブーカ・グランダやカルロス・ハイレ、フェリックス・カサベルデなどによるムシカ・クリオージャおよびアフロペルー音楽の革新において、さらにジャズ的手法と一体化し、都市ポピュラー音楽としての洗練を高めていくこととなった。



La música en tiempos de Martín Chambi (2015年)

この流れは、インディヘニスモが主導した「インカ音楽」の文脈でも同様だった。インカ音楽として構築された想像された音楽として、ヤラビーやカシュワ、ワイノなどにくわえて、ワンステップやフォックストロットといったジャズ周辺のリズムは、インカ音楽を当時演奏していたオルケスタにも取り入れられ、インカ風フォックストロット（フォックス・インカイコと呼ばれた）のようなペルー的展開まで見せている。

アンデス風音楽の黎明期に、西洋正統音楽であるクラシックやイベリア半島を中心に流行していた民衆音楽だけでなく、すでにジャズのようなアメリカ発のグローバルなポピュラー音楽がそのベースに入り込んでいたということは、忘れてはならないアンデス民衆音楽の前提条件であるとも言える。

1960年代、1970年代のレコードに、バンジュー型チャランゴなどがジャケットの端っこにさりげなく映っていたりするのもこうしたアメリカ音楽の影響の残滓であることは明らかであり、ジャズとしてアンデス都市部に入り込んだ音楽が新たな楽器として現地であだ花として花開いた時期があったということなのである。

さて、今回はここまでにして、次回は1950年代以降、いよいよペルーのジャズ自体が大きな影響力を持ち、独自のスタイルを獲得していく情景をご紹介できればと思う。

乞うご期待！

## カストロ標語を覆したキューバ新世代

社会主義キューバで新鮮かつ深刻な「文化革命」が進行している。キューバ内外の若者らが、故フィデル・カストロ国家評議会議長の革命標語「祖国か死か」に反逆し、「祖国も命も」と唱えたのが画期的な刺激剤になった。若者世代から生まれたこの新しい「標語」は「目から鱗が落ちる」ような効果をキューバ全土に及ぼし、政府を慌てさせている。ハバナで、4月16～19日、第8回共産党大会が開かれるが、議題の一つは「政治的・イデオロギー的壊乱」対策だ。この「新標語」に象徴される革命イデオロギー衰退への対応策を練るのだ。

### 発想を逆転させた標語

マイアミ在住のキューバ人ラッパー、ジョトゥエル・ロメーロら5人のキューバ人(うち2人はキューバ在住)は2021年2月半ば、「祖国も命も」というラップの歌をマイアミで発表した。「私は21世紀だ。59年の革命は終わったのだ。国民は教義でなく自由を求めている。もはや〈祖国か死か〉は叫ばない。いまや〈祖国も命も〉だ」と歌う。このユーチューブ動画は、キューバ、在米キューバ系社会、ラ米、欧州などに瞬く間に拡がり、3月半ばまでに計350万回も観られた。

ミゲル・ディアスカネル大統領のキューバ政府は困惑した。ソ連消滅後の1990年代を思わせるような食糧・薬品・日用品の欠乏が恒常化していて、いつになく国民不満が鬱積しているところに、あろうことか、「神聖な革命標語」を否定するようなスローガンが飛び込んできたからだ。食糧欠乏の放置は「命」の軽視と受け止められる。

「祖国か死か」は1960年3月初め、ハバナ港停泊中の貨物船ラ・クーブル号でCIAの隠謀の疑いが濃厚な爆発が起き、500人もの死傷者が出た一大惨事の翌日、カストロが葬儀で怒りの演説をぶち、その中で初めて使った言葉だ。国歌「ラ・バヤメサ」の歌詞「栄光の死を恐れるな。祖国のために死ぬのは生きる

ことだ」に関連する標語だ。【覚悟したような表情で彼方を見つめるチェ・ゲバラのあの凛々しい顔写真は、この葬儀の場でアルベルト・コルダが撮影した。】

### 始まった静かなる闘い

政府は、「祖国か死か、命のために」というラップの対抗歌を作って流すキャンペーンを張った。この題名は、国歌の歌詞「祖国のために死ぬのは生きることだ」を応用したものだ。だが評判は散々だった。内外の若者は「政府宣伝」として相手にしない。

ロメーロら5人はみなアフリカ系だが、悪いことに白人系の著名な知識人カルロス・アルスガライが、「5人はキューバで音楽や芸術を学ぶ恩恵に浴し、しかも黒人ばかりだ」と指摘したのだ。たちまち「革命体制の黒人差別が浮き彫りになった」と非難が巻き起こった。

【カルロスの父親は革命直後、駐日キューバ大使で、来日(1959年7月)したゲバラを迎えた。少年だったカルロスもゲバラと言葉を交わしている。】政府は、その後も「革命も命も」を抑え込む方策を次々に打ってきたが、効果は芳しくない。

ロメーロも語っているが、現在の反体制行動の起爆剤となったのは、2020年11月27日、若手芸術家らの「サンイシドロ運動」(MSI)所属の約300人の芸術家らがハバナ市内の文化省前で展開した抗議行動だった。以後、芸術家や知識人の体制批判や自由を求める言動は止まらなくなった。

彼らは、国民に困窮をもたらしながら的確な対策を講じられず、言論の自由のない「革命体制」の死守を口にしていて、と共産党一党体制を捉え、そこに怒りを向けている。政府は、キューバ人に幼児から一貫して革命教育を施してきたが、その教育効果は大学生や若い社会人から失われつつある。世代交代が進むのに古い体制は変わらない。若者層はどうやら頑迷な体制に平和裡に対峙し、静かなる闘いを開始したようだ。



## グリーンピース（エンドウ）のクリームスープ

Sopa crema de chícharos

ソリサの読者のみなさんこんにちは。  
コロナの流行を心配しながら、ご自宅でお  
すごしのことと思います。

感染症がはやっているときは、レストラン  
で外食するより、家で自炊するのが一番です。

今回は、とっても簡単なクリームスープの  
レシピです。グリーンピースを使います。

ちなみに、エンドウの未熟の種子を食用と  
する場合に、「グリーンピース」と呼びます。

ビタミン C とビタミン A、繊維やミネラル  
を含んでいます。

エンドウ (chícharo) は、スペインの征服と  
ともに 16 世紀にメキシコにもたらされまし  
た。スペインでは *guisante* と呼ばれ、*arveja*  
と呼ぶ国もあります。

メキシコでは多くの場所でエンドウを栽培  
しています。アステカやマヤ、その他のメキシ  
.....

### 材料 (4人分)

- ・グリーンピース 250 g (缶詰/袋詰も可)
- ・牛乳 700 cc
- ・こしょう
- ・砂糖
- ・バターかマーガリン 大さじ 2
- ・コリアンダー (パクチー) の葉

### 作り方

① グリーンピースをよくゆでる。缶詰や袋詰  
めならば水を捨てる。



.....  
コ先住民族もエンドウを受け入れ、きわめて多  
くの料理に活用しています。

豚肉や牛肉、鶏肉、卵ともよく合うし、サラ  
ダにもできます。焼いてお菓子として食べるこ  
ともあります。今回は、エンドウで美味しいク  
リームスープをつくります。  
.....

- ② ゆであがったら牛乳と、いっしょにミキサ  
ーにかける。
- ③ 鍋に入れ、弱火で温める。砂糖 (量はお好  
み) とこしょう少々を加える。
- ④ バターかマーガリンを加える。
- ⑤ 鍋からあふれないように気をつけて、少し  
ずつ混ぜる。
- ⑥ 深皿か、カップによそい、コリアンダーの  
葉 1・2 枚をトッピングする。  
フランスパンといっしょにどうぞ。

## (1) 危機に瀕する中米乾燥回廊

メキシコからコスタリカを横断する中米乾燥回廊では乾季が4か月以上続く。この地域には1千万人以上が居住し、その生活様式は自給自足農業と追加収入のための非正規労働に依拠する脆弱なもので、社会経済的レベルも低い。

人道組織コンソーシアムは、2018～2019年に旱魃で深刻な食糧危機があったことを発表した。2020年、雨季の暴風雨とハリケーン襲来で状況は深刻化し、新型コロナ感染防止対策で、小規模農家、インフォーマルセクター、農業労働者の活動に大幅な制限が課せられた。

国連食糧農業機関(FAO)などによると、乾燥回廊の人口の8割近くが深刻な食糧不足と極度の貧困の危機に瀕しているという。2018年には200万人強だった食糧不安を抱える人は、2019年には倍増し、コロナ禍によって2020年の10月には700万人強に達した。その後のハリケーン襲来で、約850万人まで増加した。

Via Campesinaのリーダーは、「多くの若者は大都市か国外移住、高齢者は低賃金の仕事で生き残ろうとする」と指摘する。FAO中米地域責任者は、状況悪化を顕著に語るのが、北米へのキャラバンの形での大量移住と指摘する。

以前から、FAOは中米諸国の農家支援計画を実施していた。エルサルバドルの乾燥回廊に属する5万家族の食糧システム改善計画は、コロナ禍とハリケーンによる物流体制崩壊で実施不能となった。グアテマラでは、種子・水資源・土壌・森林管理を軸とした小規模農業の再活性化計画がドイツ政府支援で実施されている。しかし、コロナ禍でも最高の収益を上げ続けるアグリビジネスの土地集積は相変わらず進行している。その歯止めがないかぎり、2030年までの「飢餓終結、食料安全保障達成、栄養



中米乾燥回廊

改善、持続可能な農業促進」など、国連主導の持続可能な開発目標(SDGs)の達成は困難だろう。

出典: <https://www.bbc.com/mundo/noticias-america-latina-56407243>

## (2) コロンビア再生可能エネルギー開発の罫

コロンビア最北部にある砂漠気候が広がるグアヒラ半島(約1.3万km<sup>2</sup>)の大半は、1991年に保護区(resguardo)として認定された先住民族ワユウの居住区(約1.1万km<sup>2</sup>、人口38万人)で占められている。半島南部では、世界最大規模の露天掘り炭鉱セレホンが1970年代から操業してきた。半島南部の住民は、鉱山操業による水資源の枯渇、環境破壊、さらには強制的土地収奪などにより、伝統的な農業活動を続けることは難しくなっていた。

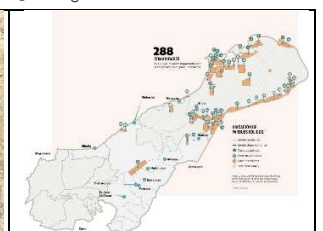
一方、半島北部は、気候変動によって、深刻な水不足に曝されている。栄養不良率が国平均の5倍以上というこの地域の水道普及率は5%未満で、選挙公約の灌漑水道整備も実施されることはない。約百万匹と推定される山羊は必要な水を得ることもできず、「仔山羊を育てる母乳が出なくなる」と先住民の指導者は嘆く。

2004年、石炭積出港のプエルト・ボリバルに近いヘピラチに最初の風力発電基地(15基の発電塔)が設置されていた。2017年以降、再生可能エネルギー開発を掲げる風力発電基地建設が相次いで計画されている。現時点でグアヒラ州内で申請されている66件のうち12件の風力発電基地計画が認定されている。その多くは海岸沿いに分布しているが、すべて先住民居留区内となっている。

先住民居住地域の開発計画に当たっては、当該地域の住民との事前協議の実施が国際法的に定められている。企業側の基本姿勢は、できれば事前協議を省き、「必要となれば修正して計画推進」というものである。地域縦断する高圧送電線建設に関しても248居留区で事前協議が必要だが、コロナ禍や居留区内の利害対立のため協議は進捗していない。



潤渴した水場に集まる山羊群



半島部風力発電基地計画

出典: <https://www.debatesindigenas.org/> 2021年2月1日



### (3) エルアルト市長選の MAS 離脱候補勝利

2020 年 10 月のボリビア大統領選挙で勝利を収めた MAS にとって、2021 年 3 月の地方選挙の結果は望ましいものでなかった。反 MAS 派の地盤サンタクルス (170 万人) は別として、首都ラパス (81 万人) やコチャバンバ (72 万人) など大都市の市長選で、MAS は勝利できなかった。首都隣接のエルアルト市 (94 万人) では、MAS 選出で解散前の上院議長だったエバ・コパが得票率 68% で、MAS 執行部指名候補 (19%) を大きく引き離し勝利した。

エルアルト公立大学で社会活動に携っていたエバ・コパは、2015 年にラパス県選出の MAS 上院議員になった。2019 年 10 月の政変時、エルアルトのセンカタの虐殺事件で辞任した上院議長の座に就任することになり、アニェス暫定大統領ら右派勢力と交渉し、2020 年 10 月の総選挙実施の合意を導き出した。

2021 年 3 月のエルアルト市長選挙に出馬するという彼女や地元支持者の意向を MAS 執行部は無視した。エバ・コパは、ボリビア農民統一労連の伝説的指導者フェリペ・キスぺ (2021 年 1 月 19 日死去) の息子で、ラパス県知事選挙で勝利することになったサントス・キスぺが組織した Jallalla La Paz 候補として出馬、MAS 執行部は、米国大使館の資金援助、右翼でクーデター支持者といった宣伝を展開した。

彼女の勝利の背景には、30 歳以下の若者や女性が過半数というエルアルトの世代・ジェンダー構成が指摘される。こうした層が、MAS 執行部に頑強に残る男性優位主義や候補者の押し付けを拒否し、女性のエンパワーメントを推進し、「アイマラ性」を強調するフェリペ・キスぺの遺産を再活性化できる新しい政治的リーダーシップを待ち望んでいたとされる。しかし、国政レベルで MAS に代わる勢力として地歩を固めるには多くの課題が残っている。

### (4) ポポル・ブフのデジタル絵本

グアテマラ・ケツアルテナンゴを本拠とする YouTube チャンネル Oxlajuj Noj Thirteen Wisdom は、2018 年 6 月から先住民族キチェの聖典とされる『ポポル・ブフ』のデジタル絵本 (紙芝居動画) 作成に取り組んできた。このデジタル版絵本には日本語・キチェ語・スペイン語の三つの言語バージョンがある。1 篇当たりの収録時間はほぼ 5~10 分の範囲内である。2021 年 4 月初旬の時点で、「はじめに」から第 31 章までの 32 編が完成している。

デジタル絵本の制作はチャンネル Oxlajuj Noj (キチェ語で 13 の知識) の所有者である米国テキサス大学で社会学・人口学の博士号取得した吉岡広敏によって中心的に推進されている。International Digital Ehon Association が提供した原画は、柳本杳美が作成したものである。ナレーションのテキストは、日本語は林屋永吉の翻訳版、スペイン語とキチェ語に関してはテッドロック、モンドロック+カーマック、サム・コロップの本などを参考にしたという。そのため、スペイン語版の字幕は日本語版の表記と微妙にずれている。

キチェ語ナレーションはほぼ一人の女性によって担当されているが、日本語ナレーションはケツアルテナンゴ在住の複数の若者 (日本語教室の出席者など) によって担われている。デジタル動画の作成手順をまとめた公開映像 (<https://www.youtube.com/watch?v=m1EzAVPB7ZE&t=208s>) には、聴きやすい日本語を発音するための練習風景も収録されている。また、キチェ語テキストの文法チェック、朗読の練習風景の映像なども見ることができる。

第 31 章の題材「戦いに向かう部族の人々」は『ポポル・ブフ』の第 4 部第 3 章に相当しているため、残りは 9 章分である。今年度には、全編が完成すると思われる。



出典: <https://www.resumenlatinoamericano.org>

2021 年 4 月 2 日



第 1 章冒頭の表紙



紙芝居動画の作成手順

出典: <https://www.youtube.com/c/OxlajujNoj/about>

この一年、皆様と同じくコロナに翻弄された一年でした。もうすぐ4歳と1歳半の子どもは、昨年の春には保育所で1ヶ月ほど預かってもらえなかったり、発熱等でお休みする基準が厳しくなり、しょっちゅう仕事を休まざるを得なくなったり。そして要介護の親と小さい子どもを抱えた状態で、もし感染したら、とビクビクする毎日です。そんな中で、先日保育所で開かれた講座で、子どもの自殺もコロナ以降急増しているという話がありました。講座は「たくましく生きる」という題目でしたが、そんな中で頭に浮かんだのはグアテマラのことでした。非常に困難な状況の中で、希望を失わず、自分たちの生きる権利を求め続けるマヤの女性たちのことを思うことで、私自身、いつも勇気をもらっています。これからの長い人生の中で子どもたちもたくさんの困難に出会うでしょうが、どうかグアテマラの人たちのように「たくましく生き抜く」人間になってもらいたいと思います。

片岡 桂子

今回の「そんりさ」印刷作業は東京で、2021年7月10日（土）

発送作業は関西で、2021年7月17日（土）の予定です。

参加いただける方は、[recom@jca.apc.org](mailto:recom@jca.apc.org) まで連絡ください。

Vol. 175 『裏切者』が米墨政府の汚職と麻薬カルテルの内実を暴く	Vol. 171 革命から40年を迎えたニカラグアの今
Vol. 174 ナルコ回廊再びー北部最前線	Vol. 170 ベネズエラ・カラカスの混沌とした日々
Vol. 173 コロナ禍のラテンアメリカ	Vol. 169 対話による解決を訴えるベネズエラ左派の声
Vol. 172 ナルコ回廊再びー北部最前線	

#### メーリングリスト

レコムに入会（もしくは購読）すると、メーリングリストにも無料で参加できます。入会したら、メールアドレス、自己紹介メールを添え、[recom@jca.apc.org](mailto:recom@jca.apc.org) まで、ご一報ください。メーリングリストに登録します。レコムの活動は会員のみなさんによって支えられています。

#### 会員の種類

☆会員：年 8,000円 …会の運営、総会参加・投票、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出  
 ☆学生会員：年 5,000円 …会の運営、総会参加・投票、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出  
 ☆賛助会員：年 10,000円（一口） 総会参加、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出  
 ☆購読会員：年 4,000円 …『そんりさ』の購読、メーリングリスト参加可

#### レコム連絡先

〒616-0004 京都市西京区嵐山中尾下町20-15  
 太田方  
 TEL 075-862-2556（留守電）  
 お問い合わせは、E-MAIL、手紙、もしくは留守番電話にメッセージをお願いします。

ホームページ：<http://www.jca.apc.org/recom>

E-mail：[recom@jca.apc.org](mailto:recom@jca.apc.org)

Facebook：<https://www.facebook.com/recomsonrisa/>

郵便振替口座：00110-7-567396

日本ラテンアメリカ協カネットワーク

レコム口座 153万3977円

グアテマラ基金口座 10万7790円

（2021年4月現在）

そんりさ（SONRISA）176号

2021年4月17日発行

日本ラテンアメリカ協カネットワーク（RECOM）

定価 400円